

第 6 回

朝霞市総合計画審議会議事録

令和 6 年 7 月 1 7 日

政策企画課

会議録

会議の名称	第6回朝霞市総合計画審議会
開催日時	令和6年7月17日（水） 午前10時00分から午前11時52分まで
開催場所	朝霞市役所別館5階 大会議室（手前）
出席者及び欠席者の職・氏名	別紙のとおり
議題	（1）第5回朝霞市総合計画審議会を実施したグループワークの結果について（報告） （2）第6次総合計画策定の流れについて （3）転入・転出意識調査の結果について（報告） （4）将来人口推計について （5）基礎調査報告（案）について （6）第5次後期基本計画総括結果の概要（成果と新たな計画に向けた課題の想定）
会議資料	・会議次第 ・資料1 第5回朝霞市総合計画審議会 ワークショップ意見の整理 ・資料2－1 第6次総合計画策定の流れ ・資料2－2 第6次朝霞市総合計画策定スケジュール ・資料3 朝霞市転入・転出意識調査 結果報告書 ・資料4 人口推計（案）（推計シミュレーション） ・資料4 （参考）地区別人口の推移 ・資料5 基礎調査 報告（案） ・資料6－1 第5次朝霞市総合計画後期基本計画 総括評価結果 ・資料6－2 第5次朝霞市総合計画後期基本計画 総括評価シート ・資料6－2 （参考）第5次朝霞市総合計画後期基本計画 総括評価シートの見方 ・資料6－2 （差し替え）P. 21～P. 22 ・当日配布 第7回策定委員会における審議内容

会議録の作成方針	☒ 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	☐ 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	☐ 要点記録	
	☐ 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした 場合の当該電磁的記録の保存期 間	☒ 会議録の確認後消去 ☐ 会議録の確認後 か月
	会議録の確認方法 委員全員による確認	
傍聴者の数	1 名	
その他の必要事項		

出席委員（２０人）

会		長	知識経験者		中	村	年	春
副	会	長	関係団体		松	尾		哲
委		員	市議会議員		飯	倉	一	樹
委		員	市議会議員		陶	山	憲	雅
委		員	市議会議員		田	辺		淳
委		員	農業委員会		秋	山	磨	弥
委		員	教育委員会		平	木	倫	子
委		員	関係団体		加	藤	弘	樹
委		員	関係団体		高	橋	甚	次
委		員	関係団体		渡	辺	淳	史
委		員	関係団体		渡	邊	俊	夫
委		員	知識経験者		内	田	奈芳美	
委		員	知識経験者		星	野	敦	子
委		員	知識経験者		原	田	晃	樹
委		員	知識経験者		村	上	文	洋
委		員	公募市民		浅	田	陽	子
委		員	公募市民		一	宮	光	夫
委	員	公募市民		酒	井	正	弘	
委	員	公募市民		高	橋		満	
委	員	公募市民		原	田	佐登美		

担当課（９人）

担 当 課	副審議監兼危機管理室長	小野澤 誠
担 当 課	総務部次長兼財政課長	金 子 智 之
担 当 課	市民環境部次長兼地域づくり支援課長	又 賀 俊 一
担 当 課	福祉部次長兼長寿はつらつ課長	濱 浩 一
担 当 課	こども・健康部次長兼保育課長	玄 順 正 明
担 当 課	都市建設部次長兼開発建築課長	塩 味 基
担 当 課	下水道施設課長	長 島 一 政
担 当 課	学校教育部参事兼教育管理課長	小石川 知 治
担 当 課	生涯学習部次長兼生涯学習・スポーツ課長	小笠原 ミツエ

事務局（８人）

事	務	局	市長公室長	稲 葉 竜 哉
事	務	局	市長公室次長兼政策企画課長	櫻 井 正 樹
事	務	局	同課長補佐	山 本 雅 裕
事	務	局	同課政策企画係長	石 崎 博 貴
事	務	局	同課同係主任	山 本 良 太
事	務	局	同課同係主任	伴 仲 邦 彦
事	務	局	同課同係主事	伊 藤 舞 香
事	務	局	審議監兼都市建設部次長兼まちづくり推進課長	村 沢 敏 美

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

◎1 開会

○事務局（山本課長補佐）

それでは、定刻となりましたので、第6回朝霞市総合計画審議会を開会します。

初めに、資料の確認をします。

本日の会議では、事前にお送りした

- ・資料1 第5回朝霞市総合計画審議会 ワークショップ意見の整理
- ・資料2-1 第6次総合計画策定の流れ
- ・資料2-2 第6次朝霞市総合計画策定スケジュール
- ・資料3 朝霞市転入・転出意識調査 結果報告書
- ・資料4 人口推計（案）（推計シミュレーション）
- ・資料4 （参考）地区別人口の推移
- ・資料5 基礎調査 報告（案）
- ・資料6-1 第5次朝霞市総合計画後期基本計画 総括評価結果
- ・資料6-2 第5次朝霞市総合計画後期基本計画 総括評価シート
- ・資料6-2 （参考）第5次朝霞市総合計画後期基本計画 総括評価シートの見方

以上の資料を使用します。

併せて、本日、机上に資料6-2の一部差し替え資料と、先日開催した総合計画策定委員会の審議内容に関する資料をお配りしています。

資料6-2については、21ページの中柱2《主な取組・成果》への追記を行ったため、差し替えを行うものです。また、総合計画策定委員会に、本日と同じ議題を諮ったところ、人口推計に関してのみ質疑がありました。内容については、人口推計に関する議事で御説明します。

全ておそろいでしょうか。

次に、本日は後期基本計画総括結果について御審議いただきますが、審議内容が多岐にわたるため、庁内各部から職員が1名出席しています。

最後に、会議開催に当たり、1点、お願いがございます。会議録を作成する都合上、発言されるときは、まず挙手をしていただき、会長に指名されてから、御発言くださいますようお願いいたします。

それでは、会議の議事進行は、中村会長に進めていただきます。中村会長、よろしくお願いします。

○中村会長

皆様おはようございます。本日も朝早い時間から御参集いただき、誠にありがとうございます。感謝申し上げます。

さて、前回の審議会から2ヶ月余り経過しました。この間、おそらく事務局の皆様には、これまでの審議会における議論の経過概要や、前回審議会で実施したワークショップの取りまとめ、その他各種資料等の作成、整理などに多くの時間と労力を費やし、多忙を極めたことと思います。その御労苦に対し、改めて感謝申し上げます。

また、審議会委員の皆様には、本日の第6回審議会開催に当たり、事前に大部の会議資料がお手元に届き、さぞかし驚かれたことと同時に、お忙しい皆様ですから、事前に資料へ目を通すのがとても大変であったと推察します。皆様の御協力に対し、改めてお礼申し上げます。

本日配布の資料を拝見すると、令和7年5月に本審議会から答申するという予定となっており、残り1年を切っています。おそらくこれからはほぼ月1回のペースで審議会を開催しなければならないのではないかと思います。いよいよ本腰を入れて審議を進めていかなければならないという状況です。委員の皆様には、御多用の折とは存じますが、引き続き審議会の運営に御協力を賜りますようお願いいたします。

では議事に入る前に、本会議は、「市政の情報提供及び審議会等の会議開催・公開に関する指針」に基づき、原則公開とされており、傍聴要領に基づいて傍聴希望者に対し傍聴を許可して

います。

なお、本日は既に1名の傍聴希望者があり、既に御入室いただいています。また、会議の途中で傍聴希望者が現れた場合には、入室を認めますので、あらかじめ御承知おきください。

それでは、ここから議事に入ります。

◎2 議事

(1) 第5回朝霞市総合計画審議会で実施したグループワークの結果について(報告)

○中村会長

最初は、議題(1)「第5回朝霞市総合計画審議会で実施したグループワークの結果について(報告)」です。まずは、事務局から、その内容について、御報告をお願いします。

○事務局(石崎係長)

第5回朝霞市総合計画審議会で実施したグループワークの結果について、御報告します。資料1を御覧ください。

第5回総合計画審議会においては、3つのグループに分かれてワークショップを行い、「朝霞市の強み・弱み」と「朝霞市が目指すべき方向性のキーワード」について、御意見をいただきました。

具体的な御意見として、①「朝霞市の強み・弱み」としては、「自然が豊かである」、「彩夏祭等、市民に誇れるものがある」、「4市の中央に位置する」という点が強みであるといった御意見をいただきました。

また、「市民の市への愛着が薄い」や「高齢化への見通しが不明瞭」という点が弱みであるといった御意見をいただきました。

次に、②「朝霞市が目指すべき方向性のキーワード」としては、「誰もが知っている、いいまち、あさか」や「何歳になっても暮らしたいまち」、「世代を超える魅力あるまち」といった御意見をいただきました。

なお、5ページ以降は、各グループでまとめられたテーマごとの模造紙のイメージを添付しています。

ワークショップでいただいた御意見は、基本構想や基本計画へ参考としていきたいと考えています。

グループワークの結果に関する報告は以上です。

○中村会長

石崎係長、御報告ありがとうございました。

事務局から前回審議会において実施したワークショップの結果について報告がありました。各グループから出た御意見・御提案等は、今後、基本構想や基本計画の策定にあたって参考とすべき事項となります。

ただいまの御報告に対し、何か御発言はありますか。

高橋甚次委員、お願いします。

○高橋甚次委員

先日のグループワークの時にもお話をさせていただいたのですが、ずっとこの会議に参加させていただいて、朝霞市内のことを、朝霞市という枠の中でいろいろと検討されている状況が強いと思っていました。

朝霞というのは、県南4市の中央部に位置していて、いろいろな意味で地政学的にメリットのある地域だと思っています。埼玉県の中でというわけにはいきませんが、県南4市の中では非常にメリットのある地域だと思っているため、もう少し広域的に朝霞がどういう立ち位置に立ったらいいのかという視点も御検討いただくとさらにいいと思います。

○中村会長

高橋甚次委員、御意見ありがとうございます。私も参加していたので、御意見については承知しています。

ただいまの御意見について、事務局から何かありますか。櫻井次長、お願いします。

○事務局(櫻井次長)

広域的な視点については、これから基本計画なども議論していきますので、そういう中で取

り入れていけたらと考えています。実際に4市の火葬場なども動いていますし、その他にも広域的な視点で考えるものもあると思います。

○中村会長

櫻井次長、御回答ありがとうございます。

酒井委員、お願いします。

○酒井委員

私も前回参加させていただき、いろいろお話させていただきました。やはり朝霞市は、非常に魅力的なまちで、潜在的な力もあると個人的には思っています。

朝霞市は都心に近いので、どうしても都心と比べられると財政的な面などで劣勢に立つことになります。ただ、23区には負けない魅力が朝霞市にはあると思います。

弱みを改善するのは非常に厳しい面がありますが、今持っている朝霞市の強みを生かして、小粒でもぴりりと辛いようなまちになると、非常に魅力的な朝霞市になっていくと思います。

○中村会長

酒井委員、御意見ありがとうございます。

ただいまの御意見は、これから作成する基本構想や基本計画の中に是非落とし込めるよう、酒井委員も御協力ください。

それでは、この議題については以上とします。

(2) 第6次総合計画策定の流れについて

○中村会長

次は、議題(2)「第6次総合計画策定の流れ」についてです。

まず、事務局から、御説明をお願いします。

○事務局(石崎係長)

第6次総合計画策定の流れについて、御説明します。

まず、資料2-1を御覧ください。こちらの資料は、これまでの審議会でもいただいた御意見も踏まえ、現在進めている第6次朝霞市総合計画策定の流れを図示したものです。左上の囲み①は、これまでの審議会でも御説明しましたが、「朝霞市の将来像を描き、その実現に向けて、どのような方向性でまちづくりを進め、どのような取組を展開すべきか」という視点です。

また、左下の囲み②については、審議会でも御意見をいただいた、「第5次朝霞市総合計画後期基本計画の課題を整理し、課題の解決に向けてどのような方向性でまちづくりを進め、どのような取組を展開すべきか」という視点です。これら二つの視点を両軸として、基本構想及び基本計画の策定を並行して進めています。

この策定の流れに基づき、本日の審議会では、議事6として第5次後期基本計画総括結果をお示しし、新たな計画に向けた課題について御意見をいただきたいと思いますと考えています。

次に、資料2-2を御覧ください。第6次総合計画の策定を開始し、約1年が経過しましたので、改めてスケジュールの説明をいたします。令和7年6月までに基本構想及び基本計画の案をまとめ、令和7年9月の朝霞市議会に基本構想を上程する流れを示しています。

第6次朝霞市総合計画は令和8年度が計画の開始年度となり、新たな総合計画の柱立てに基づいた実施計画を令和7年の秋頃に作成するため、基本構想を9月議会に上程いたします。

今年度においては、令和7年2月までに基本構想素案及び基本計画素案をまとめ、3月中に市民コメントを実施いたします。

なお、パブリックコメントは市民コメントと名称を変更しておりますので、今後は市民コメントの名称で説明いたします。

具体的な進め方ですが、スケジュールの上方、赤く丸で囲まれた⑥が本日の審議会となります。本日は、人口推計について今後の方向性を決定し、また、第5次後期基本計画総括結果を基に、新たな計画に向けた課題について御意見をいただきたいと思いますと存じます。

スケジュール表にはありませんが、7月24日の外部評価委員会で、後期基本計画の総括について評価をいただきます。この外部評価委員会の評価結果については、まとめ次第、速やかに皆様に資料として提供させていただきます。

次に、8月の第7回審議会では総合計画全体の課題と、資料2-1の二つの軸から検討した

基本構想の骨子について、それぞれ御意見をいただきたいと考えています。

次に、10月の第8回審議会では、外部評価委員会の意見や、8月の審議会で御意見をいただいた基本構想の骨子を基に検討した基本計画骨子案をお示しし、御意見をいただきたいと存じます。

次に、10月下旬から11月は、月2回の審議会開催となり、委員の皆さまには御負担をおかけし誠に恐縮ですが、第9回審議会では基本構想素案や基本計画の素案をお示しし、御意見をいただきたいと考えています。

なお、基本計画素案については、第5次朝霞市総合計画後期基本計画の策定時と同様に、第9回から11回まで分野別・章別に審議会を開催し、御意見を頂戴したいと考えています。

次に、2月の第12回審議会では、市民コメント案として基本構想素案及び基本計画素案をまとめ、3月に市民コメントを実施します。

その後、市民コメントの意見を踏まえ、令和7年5月の第13回審議会に基本構想案及び基本計画案の市民コメント後の修正案をお示しし、審議会から答申をいただいた上で、9月議会に基本構想を上程する予定としています。

なお、基本構想素案が固まった段階や基本計画素案が固まった段階など、適宜市議会への報告を行いたいと考えています。

また、基本構想骨子案や基本計画素案が固まった段階で、市民意見交換会や分野別市民懇談会を開催し、市民参画を進めるほか、都市計画マスタープランとの連携を図りながら策定を進めていきます。

第6次総合計画策定の流れに関する説明は以上です。

○中村会長

石崎係長、御説明ありがとうございます。

ただいま、事務局から第6次総合計画策定の流れについて説明がありました。このスケジュール表では、本審議会は令和7年5月の答申に向けてこれから鋭意議論を重ねていくことになります。委員の皆様には、引き続き御意見、御提案等の提出と会議の運営に御協力くださいますよう、よろしくお願いします。

では、この件に関して御意見のある方はいらっしゃいますか。田辺委員、お願いします。

○田辺委員

第7回審議会の前に外部評価委員会があるとのことでしたが、第5次朝霞市総合計画後期基本計画の冊子、25ページから29ページに後期基本計画を策定するに当たって、前期基本計画のコンセプトが市民満足度でどう変わったかというのが載っています。

先ほどの資料2-1の②第5次朝霞市総合計画の課題を整理したとありますが、私は大前提として、第5次朝霞市総合計画全体の総括をするべきだということ、また、第5次朝霞市総合計画の総括は外部評価委員会で審議するのか、またはそれを整理したものが、次回審議会で提供されるのかを確認したいです。

○中村会長

櫻井次長、お願いします。

○事務局（櫻井次長）

第5次朝霞市総合計画全体を通した評価については、7月24日の外部評価委員会を受けて8年間のまとめをしたいと考えています。

また、外部評価との関わり合いですが、第5次朝霞市総合計画前期基本計画総括評価の3年分については既に外部評価委員会にかけてあり、これまでの審議会でも御説明いたしました。そして、前期基本計画の残り2年間については単年で審議を行った外部評価委員会の意見を活用します。さらに、後期基本計画の3年分の総括評価は来週外部評価委員会にかけ、8年間分の評価をまとめたものを資料として皆様にお示しすることを考えております。

○中村会長

田辺委員、いかがですか。

○田辺委員

市民満足度は毎年把握していて、それを示すということですか。

○中村会長

櫻井次長、お願いします。

○事務局（櫻井次長）

第6次朝霞市総合計画策定のために特化した市民満足度調査は実施しておりませんが、毎年度実施している市民満足度の積み上げを使用したいと考えています。

○中村会長

田辺委員、いかがですか。

○田辺委員

来年2月末か3月に市長選挙があります。第5次朝霞市総合計画の策定時にも市長選挙があり、総合計画自体をどうするかという議論が審議会の中でありました。市長のマニフェストと調整が必要になるのではないかと思います。今の市長が続投する場合はあまり変わらないと思いますが、もし別の市長になると、選挙後に検討すべきことがあるのではないかと思います。

来年5月の答申にこだわる必要はないと思うのですが、融通を利かせられるスケジュールになっているのでしょうか。

○中村会長

櫻井次長、お願いします。

○事務局（櫻井次長）

今お示ししているのは現状のスケジュールになりますので、今はこのスケジュールに沿って進めさせていただき、状況を見ながら柔軟に対応していきたいと思います。

○中村会長

田辺委員、櫻井次長、ありがとうございました。

それでは、議題（2）については、以上とします。

（3）転入・転出意識調査の結果について（報告）

○中村会長

次に、議題（3）「転入・転出意識調査の結果について（報告）」についてです。

まずは、事務局から、その内容について、御報告をお願いします。

○事務局（山本主任）

転入・転出意識調査結果について、御報告します。資料3「朝霞市転入・転出意識調査結果報告書」を御覧ください。

転入・転出意識調査については、第3回審議会において、一度報告させていただきましたが、その際にもお伝えしたとおり、4月に追加調査を行い、以前お示した報告書に追加調査の結果を加えて取りまとめたものがこちらの報告書となります。

1ページを御覧ください。調査概要を記載しています。この調査は、当初、転入者及び転出者を対象として、総合窓口課の窓口で転出入の手続きを行う方に、調査票を配布し、郵送またはインターネットでの回答としました。調査期間は、令和5年12月15日から令和6年1月15日までで、有効回収数は転入者17票、転出者9票でした。

追加調査として、令和6年4月10日から26日まで、市長公室の職員が総合窓口課の窓口付近に待機し、転出入の手続きを行う方に、直接、聞き取りにより調査を行いました。

その結果、転入者109票、転出者68票の回収ができ、当初の調査と合わせて、転入者126票、転出者77票の回収数となりました。

続いて、調査結果について、主なものを御説明します。まず、転入者意識調査についてですが、9ページを御覧ください。朝霞市への転入のきっかけは、「自分や家族の就職・転勤・転職」という回答が最も多く、次の10ページ、朝霞市を居住地に決めた理由では、「通勤・通学に便利」が最も多く、次いで「交通の利便性がよい」という回答結果になっています。

続いて、転出者意識調査について、19ページを御覧ください。朝霞市から転出するきっかけは、転入者同様、「自分や家族の就職・転勤・転職」という回答が最も多い結果でした。次の20ページ、転出する理由については、「通勤・通学に不便であるから」が最も多くなっていますが、その一方で、「特に理由はない」という回答も多く見られました。

転入・転出意識調査の結果概要については、以上です。

○中村会長

山本主任、御報告ありがとうございます。

ただいま、事務局から朝霞市への転入者及び朝霞市からの転出者の意識調査の結果について、昨年12月に行った調査と、併せて本年実施した追加の聞き取り調査の結果をまとめた内容を報告いただきました。貴重な御意見ですから、事務局においては、今後の基本構想や基本計画の検討にあたって、十分生かしてください。

この報告に関して、委員の皆様から御意見等がありますか。一宮委員、お願いします。

○一宮委員

回収率について、聞き取り調査の方が良かったとのことで、今後郵便料金の値上げなどもあるので、聞き取り調査を検討した方がよいのではないかと思います。

○中村会長

一宮委員、御意見ありがとうございます。

郵送より直接聞き取る方が確実ですが、それを嫌がる方もいますので、嫌がる人には配慮が必要だろうと思います。

他に御意見等がなければ、次の議題に移りたいと思います。

(4) 将来人口推計について

○中村会長

次は、議題(4)「将来人口推計について」です。

まずは、事務局から、御説明をお願いします。

○事務局(石崎係長)

将来人口推計について、御説明します。資料4を御覧ください。

人口推計については、これまでの会議でも説明させていただいたため、変更のあった点について御説明します。資料4の34ページを御覧ください。

人口推計について、これまでは「出生率は現状を維持していくパターン。移動は転出入が緩やかに均衡へ向かうパターン」として「出生：中位、移動：中位」を事務局案としていましたが、審議会においては、「東京都の人口が減っていく中、人口は厳しめに見ておく必要があるのではないか。」という御意見をいただきました。

合計特殊出生率の傾向は、国の施策や社会経済状況に左右される要素も大きいと思われること、また、直近においても合計特殊出生率の低下傾向が続いていることから、審議会からいただいた御意見を踏まえ、本市における将来人口推計パターンを再度検討した結果、出生のパターンを中位から低位に変更し、「出生：低位、移動：中位」でまとめたいと考えています。「出生：低位、移動：中位」について、御意見があればいただければと存じます。

なお、審議会において「全市・長期というマクロ的な視点だけではなく、各地域・短期といったミクロ的な視点が必要ではないか。」という意見をいただいたことから、資料4(参考)として、地区別人口の推移を御用意しました。資料4(参考)地区別の推移を御覧ください。

直近5年間の地区別人口の推移をまとめたところ、幸町や根岸台などにおいては人口が増加傾向かつ高齢化率が下降傾向に、内間木や栄町では人口が減少傾向かつ高齢化率が上昇傾向という結果になりました。2ページ以降は地区別の推移をまとめているので、参考にしていただければと存じます。

また、策定委員会においては、「今後の人口政策を、市としてどのような方向性をとるべきか検討する必要がある」との意見がございました。この意見に対しては、「考え方を整理して、人口推計等を踏まえて方向性を示していきたいと考えている」とお答えしています。

将来人口推計に関する説明については、以上です。

○中村会長

石崎係長、御説明ありがとうございます。

ただいま、事務局から新たな将来人口推計について説明がありました。この将来人口推計については、当初事務局からは「出生：中位、移動：中位」のシミュレーションとしたいという提案がありましたが、第4回審議会において委員の多くから、昨今の日本の合計特殊出生率や人口減少の推移等を勘案したとき、「出生：低位、移動：中位」が妥当ではないかという御意見がありました。また、これまでも委員の皆様から多くの御意見を頂戴しています。それらの御

意見を踏まえて、ただいま事務局からは、当初の「出生：中位、移動：中位」から、「出生：低位、移動：中位」へと方針を変更したい旨の説明がありました。

本審議会としては、ひとまず本日の会議において、朝霞市の将来人口推計のシミュレーションパターンを決めたいと考えています。修正された事務局案について、委員の皆様から御意見はありますか。

田辺委員、お願いします。

○田辺委員

私はシミュレーションの形にこだわるのではなく、何のために人口推計をしているかということが1番の問題だと思います。介護保険、住宅政策など、それぞれの市の個別計画が全て連動すると思います。そのため、全ての計画が人口推計値と直接絡むという前提で、議論しなければいけないと思います。その場合に少しきめ細かな、前回地区ごとと言いましたがそれだけではなく、例えば18歳までの市内の人口が今後どう推移するか、あるいは労働人口や高齢者の労働の動向がどうなっていくのかなども必要だと思います。それが市の財政にも反映されるため、人口推計をなぜ重視しているかを皆さんに説明していただく必要があると思います。

そもそも市の財政に非常に大きな影響があるということ、例えば、人口が一部の地域で急増すると、学校や保育園を造るなど、いろいろな行政需要が出てきて、非常にアンバランスな施策をせざるを得なくなることもあると思います。人口を適度に順調に増やしていくという目標はあった方がいいと思います。

人口をどうバランスよく地域に配置をしていくのか、今後も持続的にそれを増やしていけるのかという目標を設定するのであれば分かりますが、この推計は自然増と社会増だけを出しています。社会増は東京一極集中の余波がここに来ていると思います。また、自然増はどこの自治体も確実に減っています。もう少し明確に何のためにこの人口推計をするのか、各部署の人口推計がどう影響するのかを説明した方がいいのではないかと思います。

○中村会長

田辺委員、御意見ありがとうございます。

事務局は新たなシミュレーションパターンを示しましたが、それについてはいかがですか。

田辺委員、お願いします。

○田辺委員

年代別の推計は出せないのですか。

○中村会長

櫻井次長、どうですか

○事務局（櫻井次長）

今回の人口推計については、第6次朝霞市総合計画を策定する中で、総論的に市の人口が今後どうなっていくかの推移を見るために行っているものです。個別具体についてはそれぞれの計画を作るときに、例えば学校であれば生徒数の推移など、それぞれの計画に必要な情報を取り入れています。新たな提案もありましたので、その点は今後、例えば第6次朝霞市総合計画後期基本計画やそれ以降の総合計画策定の際など、人口推計の捉え方の参考とさせていただきたいと思います。もう少し細かい階層での推計は出せるのですが、現状資料として用意していませんので、今回は市の人口推計の総論としての方向性をまとめていただき、個別の基本計画などを検討する際に、細分化した推計をお出しできればと考えています。

○中村会長

櫻井次長、ありがとうございます。

田辺委員、お願いします。

○田辺委員

後の話にもつながりますが、第5次朝霞市総合計画の総括をしている中で、世代別にどんな世代の人口が増えて、どんな世代で減っているのか、また、一時期人口が集中した地域があり、スプロール化が進んだということもありましたが、そういう地域が今度は逆に空き家、高齢化といった市の課題になっていると思います。朝霞市の課題を抽出するに当たっても、この10年間でどのように人口が推移してきたか、きめ細かい検証が必要だと思います。先ほど学校の話も人口の急増と関連していて、今、第六小学校、第九小学校を増築しているのもその

地域の人口が急に増えたからであり、第5次朝霞市総合計画の反省点として、入れ込んでほしいと思います。

○中村会長

田辺委員、ありがとうございます。

事務局が示された方向性については、田辺委員、いかがですか。

○田辺委員

仕方ないです。

○中村会長

田辺委員、ありがとうございます。

村上委員、いかがですか。

○村上委員

私は「出生：低位、移動：中位」で良いと思います。人口推計シミュレーションをどう使うかという話がありましたが、これはベースの数字として見るべきです。これに対して基本構想、基本計画でしかるべき施策を打つことによって人口の増減にどのくらいつながるかを検討するためのデータに使うものだと思います。

例えば兵庫県の姫路市では、将来人口推計の中の子どもの数を地区別に落とし込んで、保育園の整備計画に使っています。このように、将来人口推計の数字をベースに、今後計画を立てる際に、施策の効果を定量的に把握したり、施策の優先順位を考えたりする際に活用すると思います。一点お願いなのですが、この地区別の推計に関しては、地図を付けて、その地区の増減を色で示すと分かりやすいと思います。

○中村会長

村上委員、御意見ありがとうございます。また、とても参考となる御提案をいただいたので、事務局においては、今後策定に当たってそれらを十分生かしてください。

ただいま事務局から提案のあった「出生：低位、移動：中位」という修正案について、方向性としては、委員の皆様にご理解いただけたと思っています。そこで、本審議会の総意として、朝霞市の将来人口推計に関しては事務局から提案のあった「出生：低位、移動：中位」のシミュレーションパターンとします。

議題（４）については、以上とします。

（５）基礎調査報告（案）について

○中村会長

では次に、議題（５）「基礎調査報告（案）について」です。

まずは、事務局から、その内容について、御説明をお願いします。

○事務局（伴仲主任）

基礎調査報告案について、御説明します。資料５を御覧ください。

初めに、基礎調査報告書については、以前の総合計画審議会において、第5次朝霞市総合計画に掲載されている財政推計に関する資料や各施設位置図などの参考図表を加えることについて御要望がありましたので、資料の作成を進めておりました。今回、それにお応えする形で財政推計や参考図表を含めた資料としてまとめましたので、改めて基礎資料として報告します。

それでは、以前お示した資料に新たに追加した点を説明します。初めに、３１ページ以降に、財政推計資料として歳入・歳出の推移を追加しました。歳入・歳出の推移に関しては、「歳入・歳出とも、新型コロナウイルス感染症対策の影響によって一時的に増加した令和２年度を除き、年々増加傾向」となっています。

次に、３２ページを御覧ください。歳入の推移に関しては、「令和２年度からは国・県支出金が増加しているが、市税の増加は緩やか」という傾向となっています。

次に、３３ページを御覧ください。下のグラフですが、歳出の推移に関しては、「義務的経費、いわゆる人件費・扶助費・公債費のうち、人件費と公債費の伸びは限定的ですが、生活困窮者や児童などを援助するために要する経費である扶助費について、平成２５年度は９２億円だったのに対し、令和４年度は２倍近い１６５億円」へと増加しています。

また、３６ページ以降は、特別会計や公営企業会計に関する推移を掲載しています。

次に、49ページを御覧ください。49ページ以降には、参考図表として、用途地域図や都市計画道路図、公共施設の位置図等を追加しました。こちらの図表については、第5次朝霞市総合計画の冊子に掲載している図表をもとに、新しくできた施設等を反映したものとなっています。これらの基礎資料については、第6次朝霞市総合計画の策定に生かしてまいります。

基礎調査報告案に関する説明は以上です。

○中村会長

伴仲主任、御説明ありがとうございます。

ただいま事務局から基礎調査報告（案）について説明がありました。今後は、この基礎調査資料を活用して、第6次朝霞市総合計画の策定を進めていくことになると思いますが、委員の皆様から御意見等がありますか。

村上委員、お願いします。

○村上委員

これから第6次朝霞市総合計画を策定するにあたっては、財政面が重要になってくると思います。今後10年間の朝霞市の歳入歳出がどうなるのかを推計して、それに応じた施策を打つということも考えると良いと思います。実際に横浜市などは財政の将来見通しの数字を出していますので、そういうところも検討いただけると良いかと思いました。

○中村会長

村上委員、御指摘ありがとうございます。

田辺委員、お願いします。

○田辺委員

主要統計指標の参考図表を今回挿入していただきましたが、図表のそれぞれに課題はないのでしょうか。

例えば、これは都市計画マスタープランの方での議論になるかと思いますが、用途地域図では用途が混在している、あるいは面整備状況図だと、旧暫定調整区域の整備状況、そこにどう人口が増えてきているのかなどの課題もあると思います。

また、都市計画マスタープランの範囲かと思いますが、都市計画道路に関しても、整備の停滞状況や推移など課題があると思いますし、主要道路網図は幹線道路の整備などされていますが、歩道の整備状況、無電柱化の進展状況、歩道橋の課題などがあると思います。都市公園・児童遊園地については、朝霞市の公園整備率は高くないという前提ですが、公園不足地域のリストアップなども必要だと思います。さらには、避難場所図では災害別の避難の課題や福祉避難所の問題、避難行動要支援者台帳の整備状況等もあると思います。それからバス路線図が載っていますが、交通弱者の対策や、公共交通空白地区問題など、地域の課題があると思います。児童福祉施設等の位置図に関しては、この10年間で民間の参入がかなり進んでいます。そういう部分に関しては触れられていないため、民間事業者参入の是非も含めて、課題の整理の中で検証した方が良いのではないかと思います。乳幼児教育保育施設に関しても同様です。高齢者や障害者の施設に関してもかなり増えてきているので、施設ごとに設置状況の推移を整理する必要があると思います。小中学校の整備に関しても、放課後児童クラブとの関係も入れた方が良いでしょう。児童生徒数の推移や新築増築の推移も入れ込んだ方が良いでしょう。あるいはスポーツ施設、コミュニティ施設に関しては地域で生活をしていくためにどうするかという、大きな課題があると思います。

この社会の潮流に関わる部分の記載には、私は不満です。これから地域の中で生活していく環境整備を進めるときに、地域の格差が非常に大きくなっていることに関しては、もう少し図表を評価すべきだったのではないかと思います。

○中村会長

田辺委員、御指摘ありがとうございます。

櫻井次長、お願いします。

○事務局（櫻井次長）

図表については課題が見えている部分もあって、44ページから課題の整理としています。これ以外にも基本計画を策定する段階や基本構想の中で、第5次朝霞市総合計画の基本概念やコンセプトの中での課題も出てきます。それらを踏まえた上で、第6次朝霞市総合計画の細か

い課題を考えていくようなことになると思っています。

それぞれの細かい課題については基礎調査報告書に列挙するのではなく、今後の基本計画の策定の中で捉えていきたいと考えます。

○中村会長

田辺委員、いかがですか。

○田辺委員

課題の整理の中に朝霞市の抱えた課題はあると思うので、やはり課題の整理をこの中に入れ込んだ方が良いと思います。

○中村会長

櫻井次長、お願いします。

○事務局（櫻井次長）

ここの段階で44ページに入れるかどうかは別にしても、第5次朝霞市総合計画後期基本計画や、第5次朝霞市総合計画全体の課題等もありますので、それを踏まえながら、図表から見える課題も合わせて対応していきたいと考えています。

○中村会長

田辺委員、櫻井次長、ありがとうございます。

他に御意見等のある方はいらっしゃいますか。飯倉委員、お願いします。

○飯倉委員

参考図表について、課題が図表のどこにリンクしているのか分かった方が、冊子としての意味があるのではないかと思いましたが、いかがでしょうか。

○中村会長

櫻井次長、どうですか。

○事務局（櫻井次長）

参考図表のため、図表の中にそれぞれ課題を落とし込むことは今のところ考えていません。今後、課題をまとめる中で、図表とのリンクが示せるようであれば、その方が見やすいと思いますので、検討していきます。

○中村会長

飯倉委員、櫻井次長、ありがとうございます。

他に御意見はありますか。内田委員、お願いします。

○内田委員

D Xの話題は、他の自治体でも結構出てきますが、現実問題として誰が担うかを考えなければいけないというのも共通の課題です。なおかつD Xと記載しているからには、村上委員からもありましたが、課題などをいかに可視化するかというのは、D X発展の中で非常に容易になってきています。先ほどたくさんの御意見がありましたが、500mの範囲にどういうものがあるのかというような課題を市民に対して可視化することは、こういう保守的な図ではない方法があると思います。G I Sを用いながら、今後議論の中で何が課題としてあるかをより可視化するための、地理的な関係性を見せるようなものが今簡単にできるようになってきているので、D Xの一環として考えていただくと良いと思います。

○中村会長

内田委員、御意見ありがとうございます。

櫻井次長、いかがですか。

○事務局（櫻井次長）

今後、計画を考えるにあたって、課題等を可視化できるものは資料としてお見せすることも考えていきたいと思います。ただ、今回について言えば急にこの段階からD Xで資料を全て揃えるのは難しいため、できるところがあればそこから示していきます。

○中村会長

櫻井次長、ありがとうございます。今後、是非検討してください。

他に御意見はありますか。渡邊俊夫委員、お願いします。

○渡邊俊夫委員

47ページの課題部分について、「暮らしの魅力向上に向けた取組が重要である」というとこ

ろは、1 番難しいと思います。安全安心、心安らかに朝霞市に住めるという状況は、おそらく総合計画だけでは片付かない社会的な要因がたくさん絡んでくると思います。例えば、どうやって人のつながりを作るかがこの中からは読み取れません。朝霞市に住んでいて、嬉しいと思うためには人とのつながりを作っていくといけないと思います。コロナ禍があって、人とつながらなくても済む時代を過ごした期間で、つながらなくても困らないことは分かったと思うのですが、孤立しても誰かがサポートをしてくれるから大丈夫というわけではなく、人とつながっていて初めて安心が出てくると思うので、その部分をどう表現していったらいいのかと感じます。総合計画を策定する中でそこが意識の中に入ってくると嬉しいと思います。

○中村会長

渡邊俊夫委員、ありがとうございます。総合計画の策定作業が進んでいく中で、いずれどこかに落とし込めるのではないかと思います。

田辺委員、お願いします。

○田辺委員

確認ですが、基礎調査報告は案となっていますが、これで良いか了承してほしいということでしょうか。今までの経験上、基礎調査報告書がそのまま総合計画の中に文章として入ってくると思います。先ほど言ったことについて、それはまた策定のときという話でしたが、先ほどの渡邊俊夫委員の発言は非常に重要なものなので、きちんと文章化して入れ込んでいただきたいと思います。非常に漠然とした形で載せてしまっていますが、やはり朝霞市の課題をもう少し明確に抽出しておかないといけないと思います。いかがですか。

○中村会長

田辺委員、ありがとうございます。

櫻井次長、いかがですか。

○事務局（櫻井次長）

資料でお示しているものは、基本的な部分の課題で、もちろん人のつながりも基本的な課題ですが、社会状況で読み取れた部分の課題を基礎調査としてまとめたものです。こちらで今回まとめさせていただいて、他の細かい部分の課題は、別途まとめたものを用意したいと考えています。それが集約されて大きな課題になるようであれば、まとめる前に基礎調査に加えることも検討します。現時点では一旦このようなまとめで御了承願いたいと思います。

○中村会長

櫻井次長、ありがとうございます。

これが完成版ではなく、まだ追加の余地はあるそうです。追加について、是非御検討をお願いします。田辺委員いかがですか。

○田辺委員

追加すれば良いと思います。

○中村会長

他に御意見等のある方はおいでになりますか。特にないようですから次の議題に移ります。

（６）第５次後期基本計画総括結果の概要（成果と新たな計画に向けた課題の想定）

○中村会長

それでは、本日最後となる議題（６）「第５次後期基本計画総括結果の概要（成果と新たな計画に向けた課題の想定）」について、審議に入ります。

まずは、事務局から、その内容について、御説明をお願いします。

○事務局（山本主任）

第５次後期基本計画総括結果の概要について、御説明します。

先ほど、議題（２）においても御説明しましたが、委員の皆様には「第５次朝霞市総合計画後期基本計画の課題を整理し、課題の解決に向けてどのような取組を展開するか」という視点から、総括評価の結果を基に、第６次朝霞市総合計画につながる課題を抽出していただきたいと考えています。そのための資料として、大柱・中柱の評価をまとめた資料６－１、各評価シートを綴った資料６－２、さらに参考として、「総括評価シートの見方」を御用意しました。

それでは、総括評価の結果について、資料６－１を基に、概要を説明します。資料６－１の

1 ページ目を御覧ください。こちらでは、総括評価における大柱、中柱の達成状況の集計をしています。

初めに、30 項目ある大柱については、全てが「B おおむね順調」という評価でした。

次に、中柱の 79 施策については、そのほとんどである 76 施策、96. 2% が「B おおむね順調」という評価でしたが、3 施策について「C やや遅れている」という評価になりました。評価が「C」となった施策は、第 2 章 健康・福祉、第 3 章 教育・文化、第 4 章 環境・コミュニティの施策でした。

2 ページ目を御覧ください。評価が「C」となった 3 つの施策について、簡単にまとめています。まず、「地域共生社会の構築」については、新型コロナウイルス感染症の影響が残り、地域での「つながる」活動ができなかったことなどから、やや遅れているという評価でした。次に、「芸術文化の振興」についても、新型コロナウイルス感染症の影響が残り、成果指標の目標を達成していないため、この評価となっています。最後に、「低炭素・循環型社会の推進」については、社会情勢として、温室効果ガス排出量削減が求められていたことから、指標の目標値を上方修正した影響により、進捗が遅れているという評価となっています。

続きまして、資料 6-2（参考）「総括評価シートの見方」の 2 ページを御覧ください。本日は、2 ページ目の右下、吹き出しで記載しているとおり、総括評価シートの「今後の課題」に記載されている内容を中心に、第 6 次朝霞市総合計画につながる課題について、御意見をいただきたいと考えています。

○中村会長

山本主任、御説明ありがとうございます。

ただいま、事務局から第 5 次朝霞市総合計画後期基本計画の総括結果の概要について説明がありました。ここでは、第 5 次朝霞市総合計画後期基本計画の総括評価シート等を参考に、第 6 次朝霞市総合計画の策定に向けた課題等に関して、皆様から御意見を伺いたいと思います。審議会委員の皆様は、それぞれに御専門の分野、あるいは得意とする分野、興味関心のある分野をお持ちですから、忌憚のない御意見をたくさん頂戴できるのではないかと思います。

酒井委員、お願いします。

○酒井委員

感想と質問です。まず、評価では、A がなく、ほとんど B で、僅かに C があるという状況です。達成状況の評価は、外部評価委員の方がされたのでしょうか。

それから、市民意識調査の満足度ですが、これは市民アンケートなどをされたのでしょうか。どういう基準、方法で出されたのか教えてください。

中立的に見て、達成状況の評価と市民意識調査の満足度にかい離があると思いました。市民意識調査の方が少し厳しく感じます。前回のワークショップで朝霞市の強み・弱みを出したときに、強みも少しはありましたが、弱みの方が多かった中で、第 5 次朝霞市総合計画の検証結果が概ね順調とは思えません。財政的に道路や安全についてはなかなか達成できない部分があり、いろいろな課題が多いと思うので、概ね順調という評価は、私の実感とは違います。この違いはなぜなのか、本当に順調なのかという疑問があるので、この評価はどのような基準でどなたがどんな方法でされたのかを教えてください。

○中村会長

酒井委員、御意見ありがとうございます。

石崎係長、お願いします。

○事務局（石崎係長）

まず、こちらの達成状況の評価については、内部評価で、市の行政内部で行ったものです。では、内部評価をどのように行っているかですが、まず、総合計画などに成果指標として目標を定めており、その目標をどの程度達成できたか、また、それぞれ計画策定時の現状と課題に対する主な取り組み・成果などの定性的な評価を行い、総合的に評価をしています。

次に、市民意識調査の満足度についてです。こちらは市民満足度調査というものを実施しており、そちらの数値を入れています。

酒井委員が御指摘のとおり、朝霞市の強み・弱みについては、弱みの意見が多いという結果はございます。総括評価についてはあくまで市の事業目標に対してそれぞれの所管が評価を行

っているものです。したがって、朝霞市で暮らしている皆様のこうだったら良いと思う御意見については、今後の課題として我々が真摯に受け止めていくべきものであり、市民の意識と行政内部の評価に差異が生じているものと考えています。

○中村会長

石崎係長、ありがとうございます。

酒井委員、お願いします。

○酒井委員

再度確認ですが、行政の内部評価ということでしょうか。

○中村会長

石崎係長、お願いします。

○事務局（石崎係長）

これはあくまでも内部評価の報告で、市の内部で達成状況を評価したものです。外部評価については、来週24日に開催される外部評価委員会に資料を提示し、意見をいただきます。

○中村会長

酒井委員、お願いします。

○酒井委員

内部評価をするのは、市の幹部職員ですか。あるいは担当部署の職員の評価ですか。

○中村会長

櫻井次長、お願いします。

○事務局（櫻井次長）

施策を担当する部署としての評価です。

○中村会長

酒井委員、よろしいですか。

○酒井委員

部署での評価であったら、自分のやってきたことを厳しく評価はできないですね。日本人は自分を評価するときにAを付けるのは気が引けるので、概ねBとする人が多いと思います。私自身もサラリーマンとして上司に自己評価を提出するときには、Bを付けると思います。

市民満足度と達成度のギャップを埋めるような評価方法や評価項目が必要だと思います。

○中村会長

酒井委員、御意見ありがとうございました。

村上委員、お願いします。

○村上委員

評価シートの作成、お疲れ様でした。朝霞市に限らず、行政評価は20年ほど前から各地で実施されていますが、そのほとんどが形骸化しています。なぜ評価がBなのか誰も分からず、何となくBと評価をして、それを外部委員会にかけて、お墨付きをもらうというのがよくあるパターンです。第6次朝霞市総合計画では、評価のやり方はゼロから見直した方が良いと思います。そうしないと、職員の方の手間はかかるのに、大して役に立たない資料ができます。

評価のためには、ロジックモデルで政策の最終ゴール（目標）と中間政策、個別事業をきちんと紐付けて、どれがうまくいったか、どれが成功してゴールにたどり着いたか、を明らかにしないと評価できません。このような形で、第6次朝霞市総合計画においては、評価の方法を一から見直した方が良いと思います。

○中村会長

村上委員、御意見ありがとうございます。

田辺委員、お願いします。

○田辺委員

例えば防災の部分は主管課が危機管理室となっていますが、まちづくりの部分も大きく関わっています。ブロック塀の撤去、緑の植栽、あるいは密集市街地の改善など、いろいろな課題があります。そういう部分に関しては防災の位置づけに全く載っていません。

違和感があるのは、危機管理室が主管している部分だけを見てBという評価をされていると思いますが、全体をもう少し見ていただいて、それらの部分まで含めた評価をしていただかな

いと形だけのものになってしまうと思います。

先ほど、渡邊俊夫委員がおっしゃっていた地域づくりに関しても、町内会、自治会の組織率が減少していても、B評価となっています。しかし、どう考えても地域づくりに関しては後退していると思います。そういう部分にどのようにメスを入れたらよいかを考えると、評価が少し甘いと思います。

○中村会長

田辺委員、御意見ありがとうございます。

原田晃樹委員、お願いします。

○原田晃樹委員

総合計画というのは載せることに意味があるものなので、ここに載っている施策に対して評価しなければいけない問題はあると思います。そのため、普通の評価とは違い、評価しにくい部分があるのは理解しています。

抽象度の高いもの、あるいは時間軸でいうと、直近でできるものとかかなり時間をかけないと変わらないものがあります。また同時に扱いにくいものを無理やり一緒にしているという問題もあると思います。これは、指標の深さの問題だと思います。例えば、地域の活性化、市民参加の活性化に対して、何人その場に参加するか、どういう会を何回持つかというアウトプットの指標を設定しているものもあれば、リーダーがどれだけ育ったか、地域でどういうことが活発になったか、というその先を見るような評価もあって、それが混ざっている部分もあると思うので、できるだけ指標の置き方を工夫し、深さを均一にすることが大事だと思います。

また、載せることに意義があるので、C評価は付けられず、付けるとなるとその目標をどういうふうにして外すかという議論になりかねません。計画に盛り込んだものに対して、どうマネジメントするかがすごく求められます。B評価を分解していくと担当部署に与えられたタスクは達成したが、その過程で別の課題が見出された、あるいは現状では不十分だが、自分たちが与えられたタスクと予算と人工の中でできることはやって、しかしもっと予算や物を投入しないとこれ以上はできないというものや、違う課題が出てきたために、もう少し幅広く見る必要があるなど、今やっていることを、その次につなげるような指摘があると、改善に活かせると思います。ゼロベースで評価しにくいのが、総合計画の難しいところだと思います。

○中村会長

原田晃樹委員、御意見ありがとうございます。

飯倉委員、お願いします。

○飯倉委員

市民意識調査と達成状況で1番かい離があるのは、第5章の土地利用と道路交通です。どうしてこういったかい離が出てしまったのか、何か見解があれば参考までに伺いたいです。

また、今回C評価となっている地域文化のところですが、難しいと思ったのは今まで指標として使っているのが文化祭の入場者数などです。過去と比較するために同じ指標を使わざるを得ないところもあるとは思いますが、果たして文化祭にたくさん人が来ることが、朝霞市の文化が良くなっていることにつながるのかは疑問です。抽象的な概念を数値化して評価することの難しさも感じますが、参加者がたくさんいれば良いのか、相談者数がある程度いれば良い方向に向かっていると言えるのかは、検討の余地があると感じました。各評価を見るときに、指標の正当性や妥当性を常に考える必要があると感じました。

○中村会長

飯倉委員、御意見ありがとうございます。

村沢審議監、お願いします。

○事務局（村沢審議監）

土地利用、道路交通の市民満足度はマイナスになっていて、かなりのかい離があります。総括評価シートを作成するときに、計画策定時の中柱の現状と課題に対して、右側の主な取組・成果の欄に記載された内容に一定の成果が見られたことから、概ね順調という評価をいたしました。しかし、市民の方が見られる視点と、私どもが考えている現状と課題とでは異なる部分はあると思います。例えば道路交通で言えば、私たちは拡幅路線の重点的に取組む部分について、地権者の協力を得て拡幅ができたため、概ね順調という評価をしました。しかし、市民は

道路を歩いていて、歩道がないという方が多ければ、その課題は解決していないと考え、私たちが考える課題及びその解決と市民の視点とがかい離しています。今後、どのように評価シートが運用されるかについて、こういった視点にも配慮しながら、施策を進めていけたらと思います。

○中村会長

村沢審議監、御回答ありがとうございます。

飯倉委員、よろしいですか。

○飯倉委員

ほぼ全ての項目において、市としての評価と市民としての評価にかい離が生じていると思うのですが、その中でより妥当な落としどころを見出す作業をするのは今だと思います。市の総合計画なので、市民感覚とあまりにずれてしまうと、本当にそれは市民が求めている施策なのか、という批判の対象にもなるので、ラグを埋めていく作業が必要だと思います。各課に共通して、いろいろな分野で市の見ている観点と、市民が見ている観点とが違っていると思うので、そういうところに留意する必要があると感じました。

○中村会長

飯倉委員、御意見ありがとうございます。

村上委員、お願いします。

○村上委員

ただいまのお二人の意見は非常に重要で、予定していた事業は全部実施し、事業としては達成度が100%でも、まだ市の中には課題が残っている場合があります。予定していた事業を実施したかどうかと、課題が解決したかどうかをきちんと分けて評価すれば、市民の意向と事業の実施状況のかい離はうまく説明できると思うので、工夫するといいと思います。

○中村会長

村上委員、御指摘ありがとうございます。

行政は一生懸命取り組んでいるのに、市民になかなか理解し、評価してもらえないのは、行政の説明が十分でないという側面もあると思います。行政の施策に対し市民に関心を抱いてもらうための「見える化」に努めることも必要です。せっかく行政が予算を計上して市民のための施策を展開しても、それが市民から評価されないのでは、取り組む行政側はモチベーションが上がらないし、受益者である市民も行政の取組が見えないのは不幸なことです。そこに何らかの工夫が必要だと思います。

田辺委員、お願いします。

○田辺委員

今後のことです。外部評価委員会で評価をしていますが、部署ごとに計画を持っていて、部署ごとで行っている進行管理との連動を、もう少し具体的にできないかというのが私は、総合計画で1番の大きな課題ではないかと思っています。評価シートも全部署で統一的に作成していますが、部署によっては評価シートの意味が無いような場合もあると思います。評価シートの作り方も部署ごとに違っていても良いと思います。同じ評価シートを一律に利用するところに、評価が形骸化する要因があるのではないかと思うので、何か新たな試みをされる予定があるか伺いたいです。

○中村会長

田辺委員、御意見ありがとうございます。

櫻井次長、お願いします。

○事務局（櫻井次長）

評価方法をどう考えるかですが、各個別計画にそれぞれ審議会があり、そこで評価も行っていると思いますが、施策評価としては全体的に外部評価でまとめて評価をしています。施策評価シート、事務事業評価シートの中でも、外部機関からの意見の記載欄も設け、それらの意見を踏まえながら、ボトムアップで評価をしています。今のところ、現状の外部評価委員会での評価を変えるということは考えていませんが、これから第6次朝霞市総合計画の策定を見据えて、評価の方法については検討したいと思っております。例えば、所管課で評価してもらい、それを積み上げていくということも考えられます。

○中村会長

櫻井次長、ありがとうございます。

田辺委員、いかがですか。

○田辺委員

D Xを推進すると言うのであれば、その部分をきちんと立ち上げていかないと、無駄な労力を費やすことになるのではないかと思います。部署ごとの計画と総合計画とを連動させていくということも含めて、D Xに取り組んでいくという方向性があった方が良いと思います。

○中村会長

櫻井次長、いかがですか。

○事務局（櫻井課長）

第6次朝霞市総合計画でどのような評価を行うかについては、まだ検討していませんが、今後、考えていきたいと思っています。

○中村会長

田辺委員、櫻井次長、ありがとうございます。

星野委員、お願いします。

○星野委員

評価の方法論に終始してしまうとどんなに時間があっても足りなくて、市民の皆さんは御自分の立場から御意見をおっしゃるので、総合的な評価と市民の意見をうまく付き合わせるのはなかなか難しいと思います。むしろこの資料をどう活用するかというところで、最初に事務局から御指摘がありましたが、今後の課題のところで第6次朝霞市総合計画に生かせる課題、特に課題としての捉え方が適切ではないかもしれないなど、そういった議論を進めていく必要があるのではないかと思います。

私に関わっている教育の分野で言いますと、23ページ、学校教育の今後の課題に業務のデジタル化やICTといった文言が並んでいます。やはり、学校運営や教育全体のD Xの中で大幅に考え方を見直していくという視点が欠けているのではないかと思います。デジタル化とかICTもそれぞれの要素としてはありますが、学校そのもの、または教員の仕事そのものの在り方を根本的に問い直すD Xの導入の必要性を私は強く感じています。そういった内容を入れてほしいと感じました。皆様それぞれの得意分野から今後の課題として第6次朝霞市総合計画に向けて、ここの部分はどうかといった御指摘をいただけたらありがたいと思います。

○中村会長

星野委員、御意見ありがとうございます。

酒井委員、お願いします。

○酒井委員

達成状況と意識調査のかい離については、先ほどの村上委員からのお話を聞いて、一市民の立場から何となく分かりました。行政サイドは、年度ごとの予算が決められた中でこれを行うと決めたら、民間と違ってその1年間で使い切らなければいけないので、きちんと実施します。そのため、概ね計画通りになると思います。一方、市民の立場からは、例えば道路にしても、皆さんが弱みと考えている、歩道が少ない、狭い、あるいは歩道がない、ベビーカーを押している人や障害のある人から見ると、朝霞市は暮らしにくいと思います。市は狭い道でも安全のポールや標識を立てるなど、一生懸命努力していると思います。ただ、市民が期待するのは、もっと広い歩道です。そこが市民の満足度と行政の達成状況のかい離です。やはり市の取組が市民にもっと伝わると、限られた予算で一生懸命やってくれているという満足度、市民の評価も上がると思います。市民も行政もお互いに理解し合える評価方法の検討が必要なのではないかと感じました。私自身はあちこち顔を出しているので何となく理解できました。

○中村会長

酒井委員、ありがとうございます。

内田委員、お願いします。

○内田委員

先ほどの指標で市民とのかい離という話があったのですが、行政が取り組んでいる施策の価値を見せることで、市が取り組んでいる施策の内容が、伝わりやすくなります。まちづくりの

視点から言うと、価値というのは量ではなく質です。朝霞ストリートテラスの写真が第5次後期基本計画の111ページに載っていますが、似たようなことは他の自治体でも行っています。こういった取組をどう評価するかというと、例えば、まちづくりで指標として設定されるのが歩行者量です。それは分かりやすいからですが、例えば、こういう取組をしたときに、まちづくりとしての価値、質をどう評価するかで、新しい活動が何個生まれたかといった、数でありながらも質を測ることができるものがあります。そういった評価を市民に見せることができれば、取組んでいる施策の意味と価値をより強調して市民に伝えやすいと思います。

もう1点、DXについては、例えば他の自治体では定点カメラで活動の対流性や滞在性について、匿名性を担保した上で自動的に収集するシステムが導入されています。今はそんなに労力を使わなくても、多少お金はかかりますが、設置費用も下がってきているので、数字を超えた質の部分を把握することが可能です。難しいとは思いますが、行政の施策と市民生活がどう関わっているかについて、近年のDXを利用して改めて見せられる時代となってきたので、その辺りを少し検討してみても良いのではないかと思います。

○中村会長

内田委員、御指摘ありがとうございます。

村上委員、お願いします。

○村上委員

行政内部の効率化の評価の話をしますと、資料6-2の70ページ、適正かつ効率的な行政事務の遂行ということで、資料の左側の課題に職場全体の業務の効率化を図っていく必要があるとあり、右側の取組・成果にはAI-OCRとRPAを導入し、効率化につながったとしてB評価になっていますが、しかし、市役所全体の総労働時間や残業時間がこれまでどうなっていて、これらの仕組みを導入したことで何時間削減されたなどは書かれていません。労働時間の削減は定量評価がしやすいので、このような指標を設けると効果が分かりやすいです。逆に数値では評価できない施策に対して、無理に数値目標を立ててしまうと、現場に間違ったメッセージを与えてしまうので、注意が必要です。無理に数値目標を立てない方が良い場合もあります。施策によって、どのように目標を立て、どのように評価をするのかを、施策の特性に応じてそれぞれ考えるといいと思います。先ほど、部署ごとに審議会を立ち上げて検討しているという話もありました。その審議会の評価結果をそのままここに掲載するだけでも良いかもしれません。いろいろ工夫してみると良いと思います。

○中村会長

村上委員、御指摘ありがとうございます。

田辺委員、お願いします。

○田辺委員

いただいたスケジュールでは、第7回審議会が外部評価委員会の評価を踏まえた総括と基本構想の骨子案、第8回審議会が基本計画骨子案、第9回審議会は基本構想と基本計画の素案となっていますが、まずは総括をしっかりと行って、行政評価の仕組みも含めて整理をしておいた方が良いでしょう。策定委員会における審議内容を見ても、策定委員会での議論でも、同じものが提案されていて、質疑があったのは将来人口推計の部分だけとなっています。担当課が提案したものが、策定委員会をほとんどそのまま通過しているという形です。今日こうやって議論した意見を反映したものを策定委員会にもう一度かけるという構造ではないと思います。庁内でもしっかり議論していただきたいです。今のままだと担当課とコンサルにお任せで出来上がってしまう気がします。せっかく審議会でいろいろな意見いただいているので、それらの意見を策定委員会に持ち込んで、役所の中でも検討していただきたいと思います。

○中村会長

田辺委員、ありがとうございます。

櫻井次長、お願いします。

○事務局（櫻井次長）

評価手法については、外部評価委員会の意見も聞きながら、総合計画の策定と並行して進めていきたいと考えています。今日お示ししたスケジュールは、あくまでも第6次朝霞市総合計画を策定する上でのスケジュールを示しているものです。

次に、策定委員会については、もちろんこれまで審議会でもいただいた御意見は、策定委員会にも報告しており、審議会で出た意見を反映した資料に対して策定委員会から出た意見も勘案し、修正を加えたものを本審議会にお示しています。今回、意見のない項目が多いのは、これまで議論を重ねてきた報告部分が多いこと、また、総合計画策定の流れや将来人口推計、基礎調査報告についてもこれまで審議を重ねてきており、積み上げの中でまとまったものであることから、意見なしということでした。第5次朝霞市総合計画の課題についても、それぞれの部署から出たものの積み上げであり、あくまでも課題を審議会に諮り、課題から漏れがないか、他にどんな課題があるかなど、審議会から御意見をいただきたいということで、策定委員会からは意見がなかったものです。審議会と策定委員会とは、それぞれの会議においてどういった意見が出たか、情報共有を図りながら、今後も進めていきたいと考えています。

○中村会長

櫻井次長、ありがとうございます。

田辺委員、いかがですか。

○田辺委員

ボトムアップというのであれば、それぞれの部署に計画があるので、その計画を基本構想骨子案の中に盛り込んで、連動している状態を作っていただかないと進化しないと思います。

○中村会長

田辺委員、ありがとうございます。

大方御意見が出尽くしたようです。他に御意見がないようであれば、議題（6）の審議はこれまでとします。事務局においては、本日いただいた御意見等を参考に、第6次朝霞市総合計画の基本構想案や基本計画骨子案の検討作業を進めてください。委員の皆様には、貴重な御意見等をたくさん提供していただき、ありがとうございました。これらの御意見等は、第6次朝霞市総合計画の策定に当たって活用していきたいと考えていますので、次回審議会においても引き続き有益な御意見、御提案を賜りますようお願いいたします。

◎3 閉会

○中村会長

以上をもって、第6回朝霞市総合計画審議会の議事を終了します。

事務局から、連絡事項はありますか。

○事務局（山本課長補佐）

2点、事務連絡があります。

7月24日の朝霞市外部評価委員会において、第5次後期基本計画の総括結果について評価をしていただくので、本日いただいた多くの御意見と合わせて参考にし、基本構想骨子案の検討を進めます。また、基本構想骨子案については、次回の審議会でお示ししたいと存じます。

なお、外部評価結果については、まとめ次第、委員の皆様にも参考として提供させていただきます。

次に、次回の審議会につきましては、8月26日（月）に開催します。議題については改めて御案内しますので、よろしく申し上げます。

事務局からは以上です。

○中村会長

他になれば、これをもって第6回朝霞市総合計画審議会を閉会とします。長時間にわたって審議に御協力いただき、ありがとうございました。